

# 知事記者会見の概要

日 時：令和2年4月6日(月) 15:30～16:10

場 所：記者会見室

出席者：知事、健康福祉部長、医療統括監、  
秘書課長、広報広聴推進課長

出席記者：17名、テレビカメラ7台

## 1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

## 2 質疑応答の項目

### 発表事項

- (1) 県内における新型コロナウイルス感染症の確認事例について(第11～13例)

### フリー質問

- (1) 発表事項に関連して

<幹事社：河北・共同・TUY>

## ☆報告事項

### 知事

本県の11例目、12例目、13例目の新型コロナウイルス感染者が確認されましたので、皆様にお知らせいたします。

まず感染者11例目でございますけれども、この方は50代の女性で、上山市にお住まいの方です。

4月1日に微熱と強い倦怠感、そして2日には38度台の発熱、そして3日に頭痛と倦怠感がありましたが、熱は下がり、4日は頭痛がありました。5日に県の衛生研究所で検体検査の結果、陽性と判明しました。

この方は、昨日に公表した感染者10の方のご家族でありまして、上山市の居宅介護事業所「ながすず」、平仮名で「ながすず」に勤務しておられまして、3月31日からお休みされております。

次に、感染者12例目でございますが、20代の男性で、米沢市にお住まいの方です。4月3日に倦怠感、4日は37度台の発熱と倦怠感、鼻水がありました。5日に県衛生研究所で検体検査をした結果、陽性と判明しました。この方は、昨日公表した感染者10、上山市の方の友人でありまして、ヨークベニマル成島店に勤務し、4月4日からお休みされております。

最後に、感染者13例目の方ですが、20代の男性で、鶴岡市にお住まいの方です。4月1日から4日に鼻水と痰があり、5日に県衛生研究所で検体検査の結果、陽性と判明しました。この方は、3月20日の夜に仙台市のクラスター発生施設の利用がありました。それで仙台市からの依頼に基づく健康観察を実施していた方です。

3月31日に第1例目が確認されて以来、毎日、感染者が急速に、かつ、広い範囲で広がっていると捉えております。これで県内4地域全てに確認されたわけでありまして。これまで感染が確認されて、入院されている方々の方ですね、1日も早い回復、そして日常生活に戻られることを皆さんと一緒に私は願っているところであります。県としましては、今後も更なる感染拡大防止に向けて全力で取り組んでまいります。

今後の対応ですが、しっかりと積極的疫学調査を実施して、感染者と濃厚接触のあった方に対し、健康観察を実施するとともに、万が一、症状が出た場合には、速やかに保健所にご連絡いただくよう指導してまいります。やはり封じ込めというところに全力を挙げなければならないというふうに思っております。

県民の皆様には、連続して事例が発生しておりますので、大変驚いておられるというふうに思っています。ですけれども、不確実な情報、デマというものに惑わされないでいただきたいと思っております。落ち着いて冷静に行動していただければと思います。そして引き続き、丁寧な手洗いとマスクの着用を含む咳エチケットなどの感染予防に今後もしっかりと取り組んでいただきますようお願いいたします。

1例目は県外の方だったのですけれども、2例目以降の患者さんは県内在住者の方々です。県民の皆様を守るために、感染経路の究明を早急に進めることが重要だと考えております。

まずは保健所を中心に、濃厚接触者や感染経路などの調査をしっかりと行って、感染拡大防止に万全を期してまいります。

また、県外から本県へいらっしゃった方と接触した後に感染が確認される事例が多くなっております。県民の皆様には、法事などの行事を行われる際には、当面の間、県外からの参加を見合わせていただくようお願いしたいと思います。更に、若者の皆様には、ご自分とそれから周囲の方々の健康を守るためにも、当面の間でございますから、県外との往来、特に県外での飲食を控えていただくなど、慎重な対応をお願いしたいと思います。

本当に新型コロナウイルス感染症といったような状況がなければですね、友人と交流したり、また家族が、親族が仲良くしたり、そういったことって本当に良いことなのですよ。本当に平時でありましたらば、観光、また合宿に来ていただくというようなことは大変ありがたいことだと思っています。ですが今は新型コロナという目に見えない敵と世界中が戦っている、そういう未曾有の状況に、戦いをしている状況だというふうに捉えております。当面の間いろいろな自粛をですね、県民の皆さんにはお願いをしたいと思いますので、ご不便をお掛けするかと思いますけれども、県民の皆さんお1人お1人の命と安全を守る、そういうことが本当にいちばん大事でありますので、よろしくお願ひしたいと思います。一致団結してこの状況をですね、乗り切っていきたいと思っていますところですので、よろしくお願ひいたします。

あと既に報道はされているのですが、県民の皆さんに分かりやすいようにというように、新型コロナの相談窓口をですね、基本的に一本化いたしました。ここにありますけれども（補足：フリップを紹介）、24時間対応で、土曜日、日曜日、祝日も大丈夫であります。0120-88-0006、フリーダイヤルでございますので、ぜひ、こういった分かりやすくなりましたので、またいろいろなご相談をしていただければというふうに思います。やはり、なるべく不安というようなものをですね、払拭していただいたり、いろいろな検査、受診に至る検査というようなことにも繋がっていけばと思いますので、皆さんのほうからもご周知方、よろしくお願ひいたします。私からは以上です。

#### ☆フリー質問

記者

山形新聞の佐藤と申します。よろしくお願ひします。今、知事が公表された感染者の中にも、介護施設の職員の方がまた含まれているということで、介護施設といいますとやっぱり高齢者、利用者へのですね、影響も懸念されるわけですが、一方でマスクであったり消毒液であったり、そういった施設の中では不足が解消されていないという現状があります。こういった窮状をどのように知事として受け止めているか、また県としてできる対策というのはどういったことがあるかというのを教えてください。

知事

はい。明日記者会見もありますので明日申し上げようかなというふうに思っておりましたけれども、またいろいろな予算とかですね、さまざまなこともございますので、決定というわけではございませんけれども、やはり県内でマスクをできるだけ製造していただいておりますので、それをですね、中央からも政府のほうからもいずれというような形でお聞きはしているのですけれども、ちょっと遅れ遅れというようなことも聞いておりますので、やはり県としましてですね、ご相談申し上げながらではありますけれども、高齢者の方々がたくさん入所しておられる、またそれをお世話しておられる従業員の皆さんとかですね、介護施設関係の皆様がいらっしゃいますので、そこに対してやはりマスクが行き渡るようにというようなことをちょっと内部で考えているところでございます。

記者

具体的にはどのような、行き渡るために県独自で確保して、供給するということになるのでしょうか。

知事

そうですね、マスクを製造している方々、いろんな業界の方々のヒアリングをずっとしてきていると申し上げましたが、先般ですね、介護施設の関係者の皆様方ともちょっと、代表者の方々でありますけれども、ちょっと意見交換をいたしまして、大体このぐらいの人数でありましたり、あとやっぱりマスクが行き渡っていないというような状況とかですね、そういった状況もお聞きをいたしまして、その後県内でどのくらいマスクを製造しているか、これから製造してくださる所はあるかとかですね、そういったことを両方調べて、そしてそれをコーディネートするといえますか、あとは県としてどのようにそれを予算化していくかとかですね、そういったこともありますので、マスクに関してはそのようなことを内部でまだ話しているところなのですね。ですから皆様にまだちょっとお話できる段階ではなかったのですけれども、そういう施設関係の方々に、マスクが行き渡るようなことをですね、やはり県内で考えていきたいというふうに思っています。

記者

配布の時期であったり具体的なことは、詳細は今後詰めていくということなののでしょうか。

知事

そうですね。ある会社は3,000枚でありましたり、1日の製造量が。そういった量もございますので、あと優先順位といいますか、どこの施設とかいろいろなことがあるかと思っておりますので、そういったことをやっぱり全体を考えながら、ただ座して待っているというだけはいけないと思ひまして、県内で作ってもらって、それを県内の施設の方々に届くようにということを考えております。

記者

ありがとうございます。

記者

読売新聞の山口と申します。よろしくお願ひします。昨日も話題に上がったと思うのですが緊急事態宣言のことですね、報道でも首相が近く緊急事態宣言を出されることになったということがありますけれども、まずその受止めと、具体的に発出されたあとに、首都圏を中心とした実際のことですね、どういう具体的な措置を知事が望むかという2点について伺えればと思います。

知事

そうですね、私も報道で知りまして、とうとうそういうことをしていただけるのかという思いを持ちました。

やはり、政府がそういう緊急事態宣言というものをお出しになる、宣言されるということですね、なんとしても国民の命を守るんだという大きなメッセージになるかと思っています。そのメッセージを受けて、やはり国民1人1人がですね、また、いろいろな事業所でありまして、さらにそのコロナ感染を、拡大を防ぐというような意識が高まると思いますので、そういう効果があるだろうと私は思っております。

また、地方から見ればですね、うちの県がそれに指定されるということは恐らくないだろうなというふうには思っておりますが、それぞれの、我が県は我が県でしっかりとできる限りのことをしておりますけれども、それには限りがありまして、県民に対して自粛を要請しておりますけれども、やはりそれは県内のことでありますので、広域に渡ってその人の移動というものをね、コロナ感染拡大しないためにも、その移動規制をかけるというようなことに繋がるかと思っておりますので、地方のほうに蔓延するというようなことがですね、ある程度ストップできたら大変いいなというふうには思っております。

さまざまな課題があるのかもしれませんが、やっぱりここは全国がですね、一致団結してコロナの感染拡大を防いでいくということが、まずもって大事なことではないかというふうには思っております。

記者

ありがとうございます。

記者

朝日新聞の上月です。よろしくお願ひします。昨日の知事会見でもちょっと質問があったようですけれども、具体的な話はなかったのですけれども、学校の話で、夜になって、

チェックリストですか、50項目満たしたら再開みたいなお話がありましたけれども、実際には今日始業式がある高校もあつたりして、かなりギリギリのタイミングだったと思いますが、このタイミングにその対応というか方針を表明したことについてはどのようにお考えでしょうか。

知事

そうですね、私もそうですけれども、教育委員会の人たちもですね、土曜日でも日曜日でも登庁してずっと打合せをしております。

やはり、とにかく連続して県内で感染が拡大している、そしてその内容というものもですね、いろいろとありまして、首都圏のほうから来た方からであつたり、あるいは今日の発表のように、仙台というようなこともございます。

仙台というのは昨日の時点でちょっとわかったわけなのでありますけれども、そういうことを考えるとやはり、例えば高校生、県立学校の高校生などを考えますと、高校生ってほぼ大人に近いと言いますか、春休み中に例えば仙台に何か用事があつたり、遊びに行つたりとかね、そういったこともあるかもしれないというようなことも考えますと、しっかりとその休み中の行動をですね、聴き取りをして、そしてそちらのほうへ、あるいは東京にも行っていたとかですね、そういったことがありました場合には、やはり注意をしなくちゃいけないねということを話し合ったことも聞いておりました。昨日の時点ですけれども。

ですから、皆様の目から見ると唐突かもしれないのですけれども、やはり生徒の安全を確保するという、それが第一だというふうに考えてですね、やはりそういったことを考えるの判断と言いますか、そういうことだというふうに私は受け止めております。

それから、小中もですね、地域の実情に応じてというようなことにはなるのかもしれませんが、やはり小学生、中学生だからどこにも行かないというようなことではなくて、親御さんと一緒に、例えば仙台にお買い物に行っていたとかですね、あと、東京のほうへ行っていたとか、そんなこともあるかもしれないとか、いろいろ考えますと、やはりしっかりと万全を期すには聴き取りをして、そういう事例があつた場合には、安全を確保するためにある程度延期するのもやむを得ないというようなことなのかなというふうに私は思っております。

記者

これ、春休み前からもう休業というのが始まっていて、さらに長引くという状況になりますけれども、子どもたちに向けて、どのように過ごせばいいのかとか、お考えがありましたらお聞かせください。

知事

そうですね、本当に子どもたちもあまり長すぎて、学校へ行きたいとかですね、友達と

会いたいとか、入学式を待ちこがれていたとかですね、いろんな思いがあるのではないかなと思っております。

それで、授業再開ということがいつからかそれはわかりませんが、それまでの間にですね、学校はやはり子どもたちの居場所として解放するとかですね、あと、子どもたちとのそのいろんな連絡といったことなどもしていただいて、学校とのその繋がりをですね、持ち続けていただくとか、そういうことが大事なことなのかなと思ってます。

あと、高校生ぐらいになると、そうですね、いわゆる時代の最先端の機器を、機械ですね、ITというのでしょうか、そういったものを大いに、できる限り活用して、何ができるかというようなこともやっていくのではないかなというふうにも思っております。

非常に大変な状況ではあるのですけれども、こういう機会にですね、そういった方向の学習する機会、チャンスですけれども、方法も含めて、進めていくというのですね、これからまた何年後にまたこういうことが起きるかもわかりませんので、そういった最先端のことにもやはりチャレンジして、できる限りのことをやっていく、遠隔授業とかですね、いろんなことがあり得るのかなとも思っています。

ただ、今、そういうの、要するに環境作りとしてはまだまだなところがありますけれども、工夫して、知恵を出して、いろんなことをやはり取り組んでいただければなというふうに思っています。でも、これは教育委員会のほうからもっと詳しくですね、お聞きになっていただければと思っています。

記者

ありがとうございます。

記者

日本経済新聞の浅山です。先ほど質問のあった緊急事態宣言の関係なのですが、これまで知事は、先週、先々週の会見ではですね、そこまでの段階ではないというご認識だったかと思うのですが、ここに至って、首都圏ではそういうことは必要であると。ただ、今のお話ですと、山形県においては、恐らく今はまだ指定はされないでしょうけど、その必要性はそこまではないだろうというご認識なのか。逆に言うと、国が宣言してくれるとですね、知事のほうもかなり強力なメッセージを発しやすくなる面はあるかと思うのですが、逆に知事としては、首都圏だけではなくてですね、全国一律にやはり出してほしいと、そういった思いがあるのか、どちらのお考えでしょうか。

知事

そうですね、そういった、全国一律にすれば、もう一斉にですね、封じ込めと言いますか、そういった対応が可能になるというふうに思っています。ですが、やはりその感染がものすごく拡大しているところとですね、それが一応ある程度でとどまっている地域とか、

我が県は今、どんだんこう、毎日のようにですね、事例が確認されているところではあるのですけれども、やはり全然発生が確認されていないところもまだございますし、やっぱり地域の実情をご覧になってのご判断になるのだらうなというふうに思っています。それは致し方ないと思っています。

ただ、先ほど受止めということで申し上げましたが、やはり政府としてしっかりと緊急事態宣言を出していただくことで、地方にとってもですね、国民と申し上げましたがうちの場合は県民の皆さんお1人お1人の受止めがですね、もっと自粛というものに対する緊張感が高まると言いますか、コロナの感染を防ぐために自分は何をしようかというような行動にね、繋がりやすいと、意識が高まるというふうに思っておりますので、そういったことを私は期待をしております。

また、私が2週間前に言ったのと、今日これから、宣言が出てから言うのと同じ内容であっても、受止めがですね、やはり、もっと緊張感を持って受け止めていただけるようになるのではないかとこのように期待をしております。

記者

すると、あの法律上、山形県がなかなか指定されない、2つの要件を満たさないとかですね、そういうことで対象にはならないであろうと、知事としては、できればああいう宣言をするのであれば、全国一律でやってもらえるとありがたいということなのですか。

知事

ありがたいというか、そのほうが効果は絶大だろうというふうには思っておりますけれども、ただ、全然出ていないところもありますし。

記者

岩手県とか、そういう。

知事

ええ。島根、鳥取とかですね、3県ほど、まだゼロのところもございますので、全く同じにというようなことではなく、やっぱりその地方地方の実情に合わせてというようなことをお考えになったのかなと思っています。

記者

ありがとうございます。

記者

河北新報の岩田と申します。学校の再開について重ねてお伺いしたいのですが、昨日



の県の方針だとですね、50項目のチェックリストをクリアできれば、体制整備をされたところから順次再開していくと。前回の休校要請の時は、国の要請を受けて県でも出したかと思うのですが。それから感染者がですね、これだけ増えて、このタイミングで、県として一定期間区切ってですね、休校を延長するというようなお考えというのはなかったのか、検討はされたのかされなかったのかというか、そのあたりのお考えはいかがですか。

知事

授業再開と言いますか、始業式もですね、全く同じ日ということではなくて、今日あたりから始まるのかな、だからギリギリのところもあるし、数日猶予があるところもあるのかなと思いますけれども、やはり走りながらの対応ということになりますので、県内での感染が、感染事例というものをしっかりと分析してですね、こういうこともあると、首都圏のほうばかり見ていたら、お隣の仙台に行って来て感染した事例も出てきたわけですし、これはもう本当に、本当の近くですから、隣り合っているところですから、春休み中に高校生も行ったりですね、親子で小中学生も親子で行ったりというようなことも考えられるというふうにはちょっと危機感を持ったのではないかと考えております。

だから、本当に時間はなかなか確かに厳しいものがありますけれども、聞き取り調査をきちんとしながら、そのチェック事項を確認して、再開できるところからというようなことに考えたのではないかとというふうに考えております。

記者

ということは、県外との往来の有無とかですね、そういったことをきちんと確認すれば、一斉休校を出す、延長するよりも、各学校できちんと判断して再開してもらったほうが良いと、そういう認識というか。

知事

当初はやはり、早くね、学校を再開してほしいというようなご希望があったやに聞いておりますけれども、ただここに来て連日感染という、県内の感染確認ということが発表されておまして、そうすると生徒さん自身とか、ご父兄の保護者の方々もですね、またちょっと意識が変わってきているかもしれません。現場の話が少し聞こえてきましたけれども、こういう時期にね、再開するのかというような声も聞かれたということでもありますので、やはり、私が県外との往来を控えていただきたいと申し上げたのは、確か3月の28日だったかと思いますが、その前に県外との往来していた方々、あるいは、県内でも県外からいらした方とお会いした方が今、毎日発表している事例の方々なんですね。ですから、それを考えると、その学校関係者でありましたり、生徒さん、あと保護者の方とか、ちょっと隣県には案外行っているかもしれないとかですね。あるいは、私のお願いの前に東京にちょっと行ってきたことがあるかもしれないとか、そういったことがいろいろと考えられ

ますので、聞き取りというものをやはりしっかり行っていただいて、誰もそういう人いないんだということであれば、あるいは今回のどんどんとこう、4地域に広がりましたが、その方々との関連とかですね、いろんなこともなければですね、再開できるのだろうというふうに思います。やはりだから、学校それぞれの事情というものが大事になってくるのかなと思っています。

記者

ありがとうございます。じゃあ、今のところ一斉に期間を区切って県から延長を出すようなことは考えていないと。

知事

はい。教育委員会からお聞きしてほしいですけど、やはりそういった事例が見られた場合にはですね、やはり、だいたい2週間くらいというような、どこもそれを目処にしているわけなのですけれども、そういった期間で考えて延期というようなことになるのかもしれない。それが全部の学校になるのかどうか、それはちょっと教育委員会に聞いてみないと、聞き取りの内容によりますので、今お答えすることは難しいですね。

記者

共同の木下です。首都圏とかあるいは仙台のような都市部との往来をした方の聞き取りというのが強調されているように感じるんですけども、すでに県内でこれだけ感染者が出ていて、その中にたとえばですね、山形市の飲食店で食事をした方とか、この施設名が明かにされていないわけですけども、いわゆる県内であっても感染しうる施設とかがもう出てきている現状で、もう首都圏との往来に限って調査をしても感染が防ぎきれるとは限らない段階にきていると思うのですが。それでですね、休校を求める声というのも今電子署名で2,500筆ほど、もう集まっているようですけども、そうした大事を取ってと言いますか、どんどん感染が出てくる中で、先手を打って一斉の休校にしてほしいという保護者の声ももっともだと思うのですけれども、それに関してどのように知事としては考えていらっしゃるでしょうか。

知事

そうですね、やっぱり、児童生徒の皆さんのことを、安全確保ということを第一に考えればですね、そういったことが成り立つと思います。ですが、いろいろな地域の学校がありますので、本当に小規模のところ、ちょっと都市部から離れていたりとかですね、いろんな所ありますから、一律にできるかどうかちょっと分かりかねます。ただ、今おっしゃったようにね、もう大事を取ってというようなことであれば、そういうことも考えられ得ると思いますけれども、それは教育委員会の考えを聞いてみないとちょっとわからない。

ただ教育委員会ではやはり、ものすごく生徒の安全確保を考えてこんなギリギリの時ではあったのですけれども、こういったことがクリアできれば再開してもいいと思いますというように1つの基準を出させていただいたということだと思います。何もなしに、いいですよとかですね、あるいは2週間待てとか言うよりもですね、その学校その学校でやはり、こういったことに注意することが大事だというようなやはり意識付けにもつながるというふうにも思っております。

#### 記者

あとですね、たとえば始まる時期に差が出てくると、たとえばある市の学校はずっと休校で他のところは、やっているとすると、たとえばその学習の速度に差がついてくるとか、あるいは別の観点からいくと、県立高校の生徒さんですと、発生のある市から発生のない市に通って来るような方とかというのものは、行き来がどうしても全部止まらない限りは動き続けてしまうという側面があると思うのですけれども、この辺に関してはどのように検討されて、今回一斉休校にはしなかったのか。

#### 知事

そうですね、例えばですけれども、コロナの感染が確認された順序はですね、米沢市・上山市・新庄市だと思いますけど、そこでその首長さんたちが、市長さんたちと言ってもいいんですけれども、2週間ずつ延期をされました。だから1日ずつずれているわけなんですけれども、やはりその地域に合わせて大事を取って、なおかつなるべく早くというようなことだったと思いますので、県教委としてもコロナの感染は確認されてはいないけれども、これからたとえば2週間というような延期ということはあり得るのかなと思っています。

ただ全く先ほどの都道府県の話に戻りますけど、3つの県がまだゼロなわけですね。そういったふうに聞き取りをした結果、「全く大丈夫です」というような状況の学校がもしあるとしたら、そういうところまでは「もっと待て」というようなことは、やはり避けたいと思ったのではないかと思います。やっぱり子どもさんとか親御さんも早く始まったほうが、コロナの感染がなければですね、早く始まったほうがやはり、みんな活力が出てくると言いますか、学習も進むと言いますか、そういうことになるというふうに思います。

もう1つのご質問の内容が学習の差が出てくるというようなことだったかと思うのですけれども、そこやはりどういうふうにして工夫してですね、連休どうするのかとか夏休みどうするのかとかですね、そういったこれから、このコロナとの戦いというのは長丁場になるかもしれないわけですから、学習をどこで遅れを取り戻すとか、そういったことはやはり、これからしっかりと状況を見ながら考えていかれるのかなというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。

記者

さくらんぼテレビの生明です。すいません、ちょっとまた変わった質問になるのですが、感染者が無症状の状態家族とか職場とか友人の中で広がって行って、我々もテレビとか、ある意味新聞とかで全国のやつを見ていた中で、これが一週間前になって突然県内でダァッと広がり始めていることについて、知事の考えではなく、どう思われるかというのをちょっとお伺いしていいですか。

知事

私の考えでなく。

記者

考えというか、どう思われるかというのを、どう感じるかというのをちょっと聞かせてもらってもいいですか。

知事

そうですね。やはり本当にこれは、見えない敵と戦っている、しかも本当に手強い敵だなというふうに思います。陰性であった人がもう1回検査したら、例えば陽性、今度出たりとかですね、いろんなことがあるわけなんですね。ですから、なかなかその正体を見破るにもですね、ちょっといろいろと大変だったり、本当に新型でありますから、治療薬もまだないというようなことがやっぱり不安感も誘っていると思いますし、世界中が新型コロナと戦っている。本当にコロナ旋風とでも言うのでしょうか、未曾有の戦いだなと私は思っています。今まで私は戦争は体験したことはありませんけれども、リーマンショックでありましたり、東日本大震災でありましたり、本当にそこはですね、県民の皆さんと一緒に乗り切ってきたという思いがありますけど、今回のはさらに大変な戦いになるだろうなという思いがしております。

記者

ありがとうございます。